

## 想像できない建築

輪郭変動による多輪郭線建築

指導教員 吉松 秀樹 教授 印

3BEB2124 名畑 碧哉

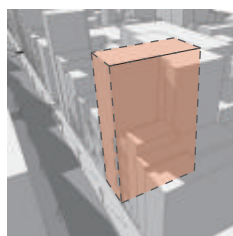
### 1. 想像する建築

東京の銀座は、ペンシルビルが立ち並び建築は、ファサード面しか目に触れることはない。

人は建築の見えている部分から得られる情報をもとに、建築の見えていない部分や内部空間を想像していることに興味を持った (fig-01, fig-02)。



ファサードしか見えていないビル  
(fig-01)



見えていない部分を想像する  
(fig-02)

### 2. 単調な建築

多層建築は、その敷地から得られる床面積を最大限確保するため敷地境界目一杯に建ち、空間を積層して行くだけで、建築空間は単調で魅力的ではなく想像しやすいものである。

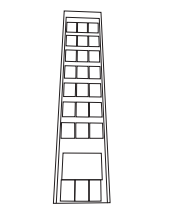
### 3. 想像させる要因

建築の見えている部分から人は情報を得て見えていない部分や内部空間を想像している。

自分は想像するのに必要な要素として建築の輪郭線が要素の大きな割合を占めているのではないかと考えた (fig-03, fig-04)。



ファサードから情報を得る  
(fig-03)



輪郭線から情報を得る  
(fig-04)

### 4. 輪郭線が変動する建築

輪郭線が見る方向によって変化する建築。

• SunnyHills (見る方向により輪郭線の密度が変  
隈研吾  
(fig-05) 化し異なった印象を与える建築)

• HouseN (見る方向により視界の抜けが変化し輪  
藤本壮介  
(fig-06) 郭線と認識する部分が変わる建築)



密度変化による輪郭線の変動  
(fig-05)



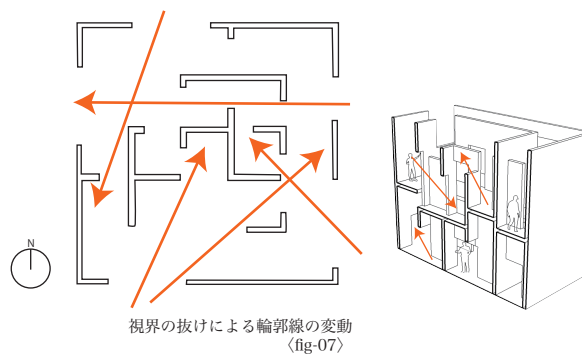
視界の抜けによる輪郭線の変動  
(fig-06)

### 5. 想像できない建築

見る方向によって建築の輪郭線を構成している壁や開口が視覚的に抜けたり抜けなかったりすることによって、目に見えている輪郭線だけでは、建築の見えていない部分や内部空間が想像できないような建築を作る。

敷地として渋谷のような街路が入り組んでいる場所を設定する。

レイヤー状に壁を配置し、その壁が貫入し合うことで見方によって建築の輪郭線が変動する建築を提案する。 (fig-07, fig-08)。



視界の抜けによる輪郭線の変動  
(fig-07)